にかほのグリーンツーリズム
第２弾！！

雨の農業体験

８月17日から19日の日程で、東京都港区芝浦港南地区の児童16名（引率６名）が本市を訪れ、農作業やそば打ちなどを体験しました。昨年に続き２回目となった今回の訪問では、横岡地区の農家６世帯に２泊３日の民泊。野菜の収穫は雨降りの中で行われ、中島台・獅子ヶ鼻湿原の散策は中止されるなど、天候には恵まれませんでした。

それでも、自分の手で収穫した野菜と、自分で打ったそばの味は格別だったようで、少々太めのそばも喜んで食べていました。みんな田舎暮らしを楽しんだようです。お土産に持たされた、にかほ産の野菜は、東京でお父さんお母さんとおいしく食べたことでしょう。都会っ子たち、またおいで！

交流の経緯

東京都港区芝浦港南地区には、白瀬日本南極探検隊が出港した芝浦埠頭があります。現在は埠頭公園として整備され、探検隊の偉業を称えています。南極探検隊１００周年イベントをともに開催する中、先方から「都会の子どもたちに田舎暮らしを経験させたい」との申し出から、グリーンツーリズム事業を主に昨年から交流が始まりました。

受け入れ農家から

齋藤進さん（横岡・ホストファミリー）

港区の子どもたちは、雨の中、横岡自治会館に到着。対面を終え、私の車に乗り込む時「これが田舎の香りなんだなー」と嬉しそうにつぶやいたのが印象的だった。この日を楽しみにしていた心情が感じられた。

わが家にやって来たのは、わんぱくで物怖じせず、家の中を隅々まで探検し、自分の家のように楽しむ子どもたちだった。

お天気をどうこう言ってもしようがないことだが、近くの野山を駆け回ったり、満天の星空を仰ぎ見たり、キャンプファイヤーの炎に照らされる顔、田舎暮らしを喜ぶみんなの笑顔をもっと見たかった。またこのような機会を、楽しみにしたい。

田舎暮らしを体験して

栗林冬磨くん（小学４年生）

楽しみにしていた獅子ヶ鼻湿原の散策が雨でできなかった。あがりこ大王をぜひ見たいので来年も参加したい。

新井菜々美さん（小学６年生）

雨模様で予定が変わったけれど、フェライト子ども科学館で実験工作ができて楽しかった。ホストファミリーの皆さんも優しくて嬉しかった。また来たいと思いました。

2011
姉妹都市アナコーテス市訪問団

８月４日から11日まで、親善訪問団として中学生14名と引率者４名の計18名が、米国ワシントン州アナコーテス市（平成８年姉妹都市提携）を訪問しました。第９回目の派遣となる訪問団は、市内の17家庭にホームステイしながら交流を深めました。

引率者と生徒２人の滞在レポートを紹介します。

アナコーテス滞在記

引率者２名（象潟中学校・岡田良勝先生、市役所・森総務部長）による共同レポート

ディスカッション

「豊かな国際感覚をもった青少年の育成と地域住民の国際感覚を高める」ことを目的に始められたアナコーテス市との中学生による相互交流事業。９回目となる今回の訪問団も、アナコーテス市の人々の素朴で温かいもてなしに、大変有意義な６日間を送ることができました。東日本大震災から間もなく５カ月を過ぎようとする時期でしたが、日本、そしてにかほ市への影響を心配し、日本を思いやるアナコーテス市民の優しさを肌で感じました。

滞在を通じて、団員の生徒は言葉の壁をもろともせず、元気に明るく交流してくれました。自分の気持ちや思いをなかなか相手に伝えられないもどかしさはあったことと思いますが、やはりそこは若者の特権。柔軟性と感受性で、言葉よりも心が通じ合ったようです。６日目に行われたアナコーテス市の学生とのディスカッションでは、恥ずかしがらずに自分をアピールする姿勢を学んだのではないでしょうか。

アメリカの子どもたちは、家族同士のコミュニケーションを大切にし、家族の一員として、家の手伝いをよくするそうです。生徒たちも、それぞれのホストファミリーとの生活を通して、自分を見つめ、家族の在り方、大切さを再認識することができたようです。

さて、団員それぞれが目的や志をもって臨んだ今回の国際交流。ホームステイという貴重な体験を通して、異国の文化と人に触れ、生涯心に残るかけがえのない時間と財産を得ることができたものと思います。今後の人生の様々な場面で、この経験が生きてくるものと確信しています。

来年の夏には、アナコーテスの皆さんをお迎えすることになります。訪問団一同、今回の交流でお世話をいただいた皆さんに感謝し、心からのもてなしをしたいと思います。

増村夏希さん（仁賀保中２年）

異文化の中で自分がコミュニケーションをとれるかという不安と、たくさんの友だちをつくりたいという希望が入り交じった複雑な心境で出発しましたが、今は少し自信がつきました。貴重な体験をさせてくれた皆さんに感謝します。ありがとうございました。

大友寛介さん（象潟中２年）

ホストの方々とのコミュニケーションも、時間が経つにつれて、次第になれてきました。アメリカに行って、日本の生活との違いをたくさん見つけることができました。来年、アナコーテスの生徒が日本に来た時には、日本のことをもっと教えたいと思っています。